木の言い分 ⑤

■自然が住まい

先日、大学時代のクラブ同窓会の写真が送られてきました。狭い宴席での撮影でしたので、斜めや横からのものも数葉あり、当日を楽しく思い起こして眺めていました。そのとき、ふと気づいたことがありました。今までは、正面からのスナップ写真が当たり前と思いこんでいたのですが、この横顔スナップには、正面からでは判らないその人の生き様が、陰影を持って映し出されており、なんだか彼の今までの苦労が分かったような気持ちになりました。

私は、晴れた日には庭木に登り剪定作業をやっております。剪り始める前にその樹の正面や全体を見て、その樹の状態や姿の特徴を自分なりに理解して、仕事に取りかかっております。仕上がった樹は、当然スッキリとした姿になりますが、時には、何か平面的で型にはまった表現しかできないこともあります。その理由は、あの横顔のスナップ写真を忘れて正面ばかりを眺め、意識していたからだと気づいた次第です。こんなことでは、手入れをされた樹木は不満であるに違いありません。

樹木は、生物学的な時間では、いうまでもなく人間より遙かに長い歴史を持っています。今から約3億7千万年前に陸上に現れたといわれます。ちなみに、我々人間はといえば、約1万年前にようやく地球上に現れ、旧石器人として細々と生き始めました。樹木達（他の植物も含めて）は、これだけ長い年数をかけて他の生物たち（動物や菌類等）と、太陽エネルギーを利用して「自然循環」をリードし続けてきたのです。ところが、生物の中でも人間が、産業革命から現在に至るわずか2～3百年の間に、約58億人という爆発的な増加を来したのです（2005年現在で63億人）。これがため、今までの生物界のバランスは崩れだし、地球上に種々の問題（食糧問題、エネルギー問題、汚染問題等）が発生し、現在大きな問題になっています。

人は、言葉と文字を駆使するようになって、互いのコミュニケーションを格段に広げ、深め、スピードアップしてきました。このことが、人間社会を他の生物社会と大きく区別し、その最大の成果（？）は「科学」によって達成され、現在もとどまることはなく発展しています。私たちはといえば、この「科学」の成果でできあがった社会を維持し、拡大発展させるために、否応なく毎日営々と働いているのです。その努力の先にはすばらしい世界が開け（少なくとも、今までよりはさらに幸福な自分が……）ていると思いこんでいるのです。

「科学」という手段だけで自然界（人間社会も含めて）に働きかけて、自分たちが満足できれば相手のことはあまり考慮せず、結果的には弱肉強食を実行しているのが先進国（？）で生きている我々ではないでしょうか。『自然界の循環』を今一度真剣に考えるべきです。だって我々は、自然界の中でしか生きられないのですから。すべてはここから始まるのですから。

樹木医　東 義之（一級造園施工管理技士）